

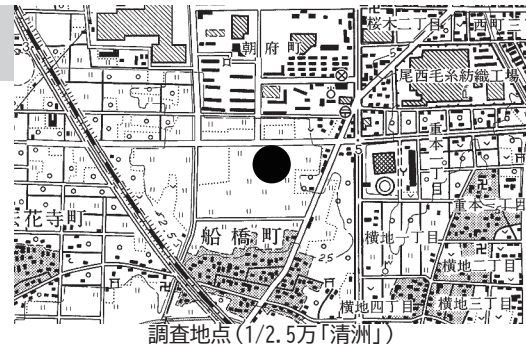
所在地 稲沢市船橋宮裏町地内
(北緯35度14分54秒 東経136度46分37秒)

調査理由 (一)津島稲沢線道路改良工事

調査期間 令和7年11月～令和8年1月

調査面積 197㎡

担当者 堀木真美子・柳原麻子

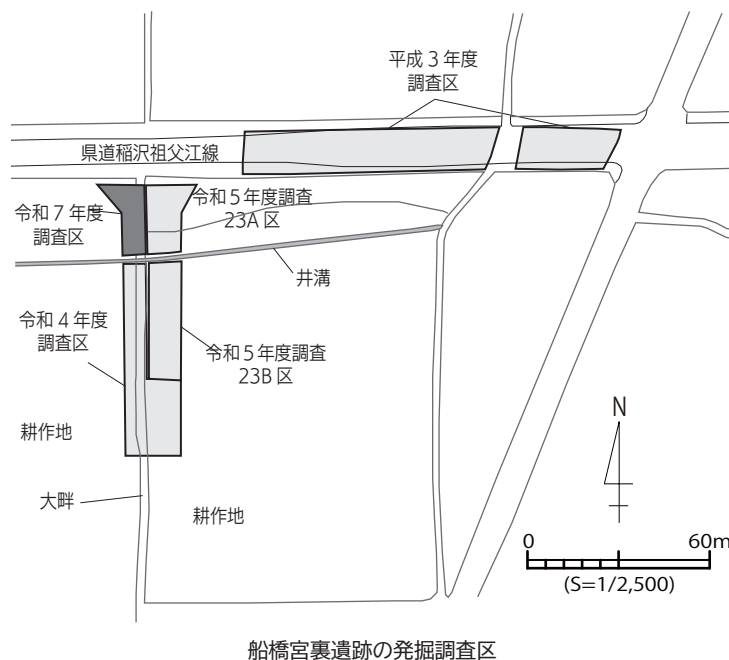


調査の経過 調査は、(一)津島稲沢線道路改良工事に伴うものであり、愛知県建設局道路建設課(一宮建設事務所)から愛知県県民文化局を通じて、委託事業を受けて実施した。令和7年11月から令和8年1月にかけて面積197㎡の発掘調査を行った。

立地と環境 船橋宮裏遺跡は三宅川右岸の自然堤防上に立地しており、周辺には小市畑遺跡、平野・小寺遺跡、船橋市場遺跡など中世の集落跡が展開される。船橋宮裏遺跡では過去に3回の発掘調査が実施されている。平成3年度の発掘調査では15世紀代の火葬施設や方形土坑群を伴う墓域が確認されており、令和4・5年度の発掘調査では遺構・遺物が希薄であり、集落の周縁部と判断されている。

調査の概要 今年度の調査区の現況は水田であり、湧水が多い。北壁の基本層序は次の通りである。まず、現地表面より約0.1mは耕土・床土が、それより下は灰色シルトと黒色粘土～シルトの互層が約0.2m堆積し、遺構検出面である黒褐色粘土～粘質土層に達する。調査区内は遺構検出面が、調査区南西部から北東方向に緩く傾斜しており、遺構はやや標高の高い調査区南部に特に集中していた。主な遺構は土坑、杭である。土坑は約3m×1mの長方形を呈する。杭は10本以上を検出した。そのうち4本は南北方向に列をなすように配される。鎌倉時代～室町時代の山茶碗がわずかに出土しており、中世の遺構である可能性が高い。

(柳原麻子)



船橋宮裏遺跡の発掘調査区



調査区全景(南東から)



杭検出状況(北東から)